

第2回 棒二森屋店跡地における公共施設整備検討会議

会議録

○ 開催日時：令和7年(2025年)1月23日(木) 18:00～19:45

○ 開催場所：函館市本庁舎8階第2会議室

○ 出席者

〔委員〕折谷委員，菊池委員，瀬戸口委員，仙石委員，永澤委員，安井委員（委員名簿順6名）

〔事務局（経済部）〕氣田部長，宿村次長，高橋商業振興課長，坂田主査，米谷主任

次 第

1 開 会

2 議 題

(1) 函館駅前東地区市街地再開発事業における公共施設整備の基本的な考え方（原案）について

3 その他

4 閉 会

1 開 会

（事務局 坂田主査）

ただ今から，第2回棒二森屋店跡地における公共施設整備検討会議を開催する。

本日の会議は，委員総数6名のうち，6名の委員が出席をしており，設置要綱第6条第3項に基づき，本検討会議が成立していることを報告する。

この後の進行は，瀬戸口委員長にお願いする。

2 議 題

(1) 函館駅前東地区市街地再開発事業における公共施設整備の基本的な考え方（原案）について

（瀬戸口委員長）

前回の会議では，沢山の意見をいただき，色々な情報が集まった。

本日は最終回となるが，事務局が取りまとめた資料には，各委員の意見や事前に伺ったWebアンケートの結果のとおり，様々な市民からの意見をまとめているので，本日は，まずは，事務局から資料の説明をしていただき，これに味をつけて「基本的な考え方（原案）」を完成させるような形にさせていただく。

折谷委員は今日が初めの出席のため，一言挨拶をお願いする。

（折谷委員より挨拶）

それでは，事務局から資料の説明をいただき，意見交換させていただく。

（事務局 高橋課長）

【資料 函館駅前東地区市街地再開発事業における公共施設整備の基本的な考え方（原案）】に基づき説明

（瀬戸口委員長）

充実した内容の原案となっており，この中に色々なアイデアをはめ込んでいきたい。

まずは，折谷委員から意見ををお願いする。

(折谷委員)

Web アンケートの結果において、20 代以下の回答者が伸びているのは素晴らしい。
施設が完成するまで5年かかり、将来的に利用される可能性が高い若い人からの意見と、市が考えている基本的な考えに、大きな相違が無かったということが素晴らしい。

5 ページ目の【動（交流）】にあるように、キッチンが中途半端な機能で設置するよりも周辺施設の活用促進が望ましいと感じている。

過去に、シンガポールから観光客が来た際に、スイーツを作りたいという要望を受け、朝市ひろばのキッチンを使わせていただいたことがあるが、朝市で果物などの材料を買い、その上の階のキッチンで調理でき、とても好評だった。シエスタハコダテのキッチンも利用したことがあるが、ガラス張りでおしゃれだが、多くの人の使い勝手のことを考えると中途半端なサイズかなと。朝市ひろばなどの既存のキッチンを利用することによって、周遊や人の動きができ、交流が生まれると思う。

修学旅行生の小グループが、駅前で調べたことをまとめる場所を探して、「どこもないよね」というのを実際に耳にしたことがあるので、そういった所を設けて欲しいと思った。ビジネス客や市民も、JRの時間つぶしではないが、気軽に行けるようにすると、観光客など色々な方に利用されると思う。

(菊池委員)

非常にまとまった内容になっている。

大事なのは、一過性ではなく、何度も来たくなるような、そこに行けば必ず何かあるということで、例えば、観光情報や勉強ができるスポットだったり、そこに行けばあるというのが、すり込まれているのが大事である。フレキシブルで色々使えるところもすごく大事だと思った。

折谷委員からもあったように、周りの施設との連携のベースになるようなところとして、ソフトなことだと思うが、朝市に行って何かを買って調理できることや、買い物に行きたい時に荷物を保管できるところ、JRの時間を潰すというのもそうなのかもしれない。

そこに行けば何かできるというコアになるものが、明確化されているともっといいと思う。観光、勉強、活動のベースになり、行っては戻って来られるような施設になったらいいと思う。

(仙石委員)

前回の会議の際に、若い人からの意見を聞いて欲しいと言ったことに対して、しっかり対応していただき感謝する。

これまで、自分は3施設の公共施設を運営してきたが、Gスクエアのキッチンは、折谷委員からもあったように中途半端な規模と感じているが、周辺にある朝市のキッチンはかなり使い勝手がいいので、そこをうまく使えばいいと思う。青年センターにも調理室があるが、どんなに頑張っても利用されないで、利用促進のために、料理教室などを開催し、利用率を上げている状態である。キッチンの貸館はそれほどニーズがないと思うため、既存の施設をうまく使った方がいいと思う。さらに、キッチンは管理も大変で、調理器具も「木だとだめだ」とか、「プラスチックじゃなければだめだ」など、人の好き好きがあり大変だった。

学園祭の準備や練習場所を探している中高生が非常に多いが、実際、青年センターとGスクエアでは、ハード的に中途半端なところもあるため、中高生向けの児童館機能として、防音設備等がしっかり使え、フレキシブルに使えるようにすると非常に良い。

学生たちにもっとまちに出てきてもらいたいと思うので、高校や大学などのプロジェクト学習や公開授業と連携し、若いうちから函館への愛着心を育て、まちに飛び出してくる学生を増やしていきたい。そのことで、将来的に、函館に残った子どもたちが、こうした公共施設で働きたいと思っても

られないかと考えている。

現在、青年センターやGスクエア、まちづくりセンターには、マイノリティの子どもたちがよく来てくれているが、授業に組み込むことで強制的にまちに触れあってもらうところから入ってもらいたい。

演劇や演奏会の発表の場所にしてもらいたいと考えているが、調度品は選定が重要で、オーバースペックにならず、ちゃんと使えるものを、実際に使う団体にヒアリングをして進めていってもらえればと思う。

運用的な面では、指定管理施設とした場合に、利用料金とするか、使用料金にするかが、非常にポイントになってくると思うが、利用料金にしてしまうと、施設の機能がブレてしまい、指定管理者が稼ぎに走ってしまうため、使用料金にして欲しい。決まっている委託料の中で、いかに有効にお金を使うか、運用するかを考える方が、施設の設置目的が達成できると考えている。

(永澤委員)

資料を拝見し、どんな人にも利用できるということは、誰にも利用されないということと表裏一体であるという点は、1回目の会議でも指摘させていただいている。

考えられる機能の中から絞り込んで特色を出していくということをきちんとやっていただきたいと思う。

折谷委員や仙石委員からもあったが、キッチンや防音室、移住相談、定住に関する交流事業などは、既に市内に公共施設が存在しており、意見を出している市民は、そういう存在を知らずに意見していると見受けられる。まず、整理することは、ここに書かれている機能のうち、既存の市内公共施設で、どのような機能が提供されていて、それが充足しているのか、不足しているのかということ。ニーズとしては、例えば、亀田交流プラザや青年センター、函館アリーナにも運動ができるスペースがあり、運動器具は保健センターにもあるため、同じものがここに必要なかどうか。亀田交流プラザのように、地区センターとして、その地域住民の利便に供するという考え方であれば、多少重複することはあっても良いと感じるが、市全体として捉えた時に、これまで提供されている機能と重ならないようにして欲しい。また、運営が指定管理者によるものであれば、集客や活用に関し、受託団体が知恵を絞り、悩みがなるべく少なく、施設の特性を発揮できるように、ここに書かれた総合的な機能から類似のものをまずは整理し、絞り込んだ上で、この場所の特色を見いだしていくべきではないか。

先般、1月20日に、函館商工会議所の中心市街地活性化委員会正副委員長会議を開催し、本件をテーマに自由討議し、相当な意見が出たので、かいつまんで紹介させていただく。

1点目は、公共施設と市民広場の連携性という点で、平面図を見た時に、公共施設が市民広場に対してオープンになっていないことが挙げられた。公共施設への動線が、市民広場から階段を上がり、玄関として区分されているため、連続した空間となっていない。本来、公共施設と市民広場の連携や、空間的な連続性を配慮するのであれば、例えば、宇都宮駅の東口にある「宇都宮ライトキューブ」という、パブリックな再開発ビルでは、屋外に大階段が整備されていて、その大階段の突き当たりにステージを仮設してイベントを行っている。そうすると、夏はちょっと暑いですが、多くの市民が大階段に座ってデートしたり、おしゃべりしたり、くつろいだりという光景が見られる。そういった空間を応用し、幅はどれくらいにするかは程度の問題だが、市民広場に座って、くつろげる階段として、あるいは、そこに座って市民広場の催事も眺められるような空間、そこから連続して2階の公共施設も完全に仕切るのではなく、一部にテラス部分を作るなどして、2階のテラスから広場を見下ろすことができる空間作りをする。もちろん、防音や防寒の関係で、壁と入口は当然必要だ

が、こうした空間の連続性を意識した作り方が必要ではないかという指摘があった。

2点目は、商業区画とホテル、マンション区画との関係性の一体性について、指摘があった。複合施設は、施設が一体的に集客できることを目指すのが本来の姿であり、そうした時に、商業施設が観光客向けの飲食店で夜営業を主体とし、公共施設が市民向けでお昼主体となると、来訪目的が乖離して集客が難しくなると指摘されている。原案どおり公共施設が市民向けというのであれば、商業施設やその周辺環境についても、市民の目的地となり得る場所にしていく必要があるのではないか。

市民向けということであれば、駐車場のあり方にも懸念があって、旧棒二パーキングを使わせてもらえるだろうという前提で、駐車場が現時点で確保できていないのであれば、市民向け施設にすることについては、懸念があるとの指摘をいただいた。

3点目は、枠組みがほぼ確定した中で、公共施設のあり方を議論していることについて、例えば、2,000㎡の整備に10.6億円、坪単価180万円と非常に高額で、それに対するプレッシャーが恐らくあって、市民の目もシビアになる。あり方検討に関与して誕生した公共施設に対し、多額の整備費をかけてこの程度かと、あとで非難されるのは非常に辛い。私たちも、この議論に参加する上で、本来、トータルでそのエリアや施設全体の魅力と集客方法を考えたいが、商業区画はデベロッパーがやるので口を挟みにくく、公共施設単体で、集客性の高い施設にすることも難しい。その中で考え得る最善の選択を目指すように、まちづくり参加していく必要があるというような意見があった。

委員からのアイデアとして、観光情報センターがあった。今回のたたき案では、市民利用に重点を置くとはっきり明記されているので、それとは相対する見解ではあるが、通勤族ながら函館の理解度が高い委員の方から、「函館に観光案内所はあるの？」と尋ねられ、函館駅の中にあることを伝えたと、「500万人以上も観光客が来ている街で、観光案内所がどこにあるか今まで知らなかった。」という話があった。観光都市としてこれはちょっとまずいことではないかと考えると、観光情報センターや交流センターのような位置付けで、函館ビギナーの方や、函館のことを知りたい観光客が必ず立ち寄る施設、拠点ということも一考ではないかという意見があった。なぜ、そういう拠点が必要かという、自分たちが観光客になった時に置き換えれば、訪問先で何を見て歩くか、何を食べるかというのは、出発前に大体組み上がっているの、観光案内所には、自分の知らない情報が欲しい時に寄ることになる。函館を訪れる観光客は、元々、やりたいことをもって来ているので、観光客も「ついでに」立ち寄れる程度の拠点ではあまり人は来ない。観光客が立ち寄る理由づくりを考えた時に、観光情報センターという機能が必要なのではないか、との意見だった。

最後4点目、函館駅前地区は、ホールとして提供できる施設がほぼ無く、北洋ビルの中にホールはあるが、あまり使われていない実態がある。そういうところからも、ホール機能は、地域として提供できる施設であってもいいのではないか、との意見も示された。

以上が、1月20日の委員会での意見である。
(安井委員)

今、永澤委員の話を伺って、アイデアが浮かんだが、「市民も観光客なども誰もが自由に集い交流する多機能型施設」と聞くとあまりイメージがわからないので、軸足になるようなテーマやコンセプトがあってもいいと思っている。例えば、「みんな函館好きにさせる場所」とか、そういうテーマがあったら、そのテーマに基づいて、これはそうなのだろうかと考えられるかもしれないと思った。観光客も市民も函館好きにさせてしまう、何か軸足となるコンセプトが、もう一言あってもいいのではないかという気がしている。

話が変わるが、未来大で何ができるかなと考えた時に、仙石委員からもあったが、単に出張講義を

するといっても一過性のものだし、別にそこじゃなくてもいいと思ってしまう。例えば、未来大の卒業生のほとんどが、東京、首都圏に6割程行ってしまうが、函館を出て20年経つと、同級生の中には、函館出身ではないけれども函館に戻って仕事をしてみたいとか、鮭が大きくなって回遊してくるような、そういう拠点になる場所、それも単に就職フェアとか、Uターンフェアをやるのではなくて、未来大がそこにどう関与していけるか。単にOBの名簿を持っているだけではなく、学部を出て、東京で働いて、キャリアを積み、結婚したり、子どもが生まれたり、ちょっと田舎に住みたいけど、自分のキャリアアップもしたいとなった時に、社会人大学院のようなものをこういう場所で、1年借りるのか、夏休みの1カ月だけ借りるとか、そういう場所で単位が出るようなものを作ることがあっていいのかと思う。そうすると、Iターン、Uターンで来て、仕事を見つければ、さらにリスキリングではないが、AIの知見があって、よりスキルアップして、函館に貢献してもらって、それぞれがどんなことができるのか考えたら面白い。

(瀬戸口委員長)

色んな意見をいただいているが、機能と特徴を分けて考えた方がいいのかなと思っていて、皆さんのニーズを満たすような、例えば、くつろげる場所が欲しいとか、少しコーヒーが飲める場所が欲しいとか、もしかしたらキッチンも欲しいとか、細かいものが沢山ある。それが抜けると、あれがないとかこれがないとなっていくので、基本的に資料にあるような「交流の場」とか、「観光客の集まる場所」の機能を積んでいって、それにプラスして、特徴的なこと、目玉というかトピック的なもので、何をやるかというような議論を合わせていったほうが、話としては通じていくのではないかな。色んなことがあるというのも非常に大事なことで、「あの施設は何だ」という時に、それを説明できるものが多分あると思う。

意見の中に、eスポーツとあったが、例えば、それをやるかどうかは別として、そのような特徴的なものが、他にも色んなものが揃っているけれども、そこに1つ、eスポーツがあるとか、催事が出来てこんな特徴的なことができるとか、何か施設の売りになるようなものが1つあればイメージが変わると思うので、そういう議論をしたほうがいい。

何でもかんでも揃えると、あれもこれとなり、焦点がボケるというものもあるが、それはそれで、あれが欲しい、これが欲しい、これはいらない、というのはちゃんと議論して欲しくて、この特徴は何だということを1つ加えるだけでも変わるため、そのようなことができたかなと思っている。

先程から、色々な意見があるが、体を動かすような場所があると使えると思う。ここに何か1つ味を加えるようなものがあると、この施設の使い方が生きてくるかなと思うので、売りになるものがどんなものがあるといいか意見をお願いしたい。

(安井委員)

eスポーツとか、これから発展することを考えると、最近、流行りのウェルビーイングは、市民向けになるのではないかと感じている。ウェルビーイング拠点だと、ちょっと一般的過ぎるかなという気もするが、そういうのがあっていいかなと思った。そうすると色んなやり方とか、施設の使い方が出てくるのかなと思う。

(瀬戸口委員長)

その2つを分けて話をしたいと思う。まず、機能として、どんなものが揃っているか、こんなものがあった方がいいとか、これはいらないとか。キッチンは、中途半端になるくらいならいらないという話が出たが、そういうことだと思う。まずは、ベースの話である機能の話をしたい。本日の資料は、よく整理されており、6ページの原案の「3 基本となる機能」にまとめている。ここに足りないものとか、これは無くてもいいのではないかなとか、あまり無くてもいいというものはないかも

しれないけれど、ここに足した方がいいとか、こういう機能があつたらいいというものはないか。

(仙石委員)

機能でいうと、先ほど、体を動かすという話が出ていたが、最近では、民間のフィットネスクラブやチョコザップが増えていて、その辺とのバランスが重要だと思っていて、体を動かすのは良いが、団体など複数人で体を動かすものが公共施設の役割だと思う。

後は、統合予定の女性センターの機能をどこまで残すかがポイントだと思っていて、ニーズの高いサービスや機能を今の指定管理者にヒアリングして、それこそあそこには、大きな良いキッチンがあるので、聞いてみたらキッチンを残せとなるかもしれないが、それ以外で利用率の高い、ニーズの高い講座などを聞いてみると良いと思った。統合を予定している施設は、実際のユーザーがいるので、それがこっちに流れてくると、そこも大事な観点だと思う。

(折谷委員)

6 ページの基本となる機能に、「催事」があるが、「催事」だけを見ると、今までも市内のどこでもやっているような「催事」と思われるので、今まで函館ではやっていない、大都市などで長期間行っている民間の大きな興行的な催事ができればと思う。アニメなどの他の所まで見に行っていたような催事ということを、もっと分かりやすく表現できればいいと思った。「様々なイベント開催」というキーワードもあるので、それと重複するかもしれないが、機能的な面からすると、「催事」だけだと、市民の皆さんにはあまり伝わらないので、少し加えた方がいいと思う。

(瀬戸口委員長)

函館ではない催事で、札幌とか東京まで行かなければ見られないものとは、どういうものか。

(事務局 高橋課長)

函館市内で、物産展などはあるが、そうではなく、大きな都市で開催しているデジタルアート展や流行っているアニメの展覧会のように1～2か月のスパンでやっているようなものは、なかなか開催されない。

(仙石委員)

自分もそうだが、その作品が特別好きでなくても、東京に行った時に、やっていたら見に行ってしまう。なぜか不思議だが、折角、行ったから見に行くみたいな流れがここでできればよい。

(菊池委員)

札幌に行った時に、買い物のついでに寄ったりしたことがある。上の1フロアにだけ博物館的な機能があったり、美術館的な機能があったりしてもいいかもしれない。

(瀬戸口委員長)

美術館とかではやっていないのか。

(事務局 高橋課長)

道立の美術館はある。こちらで想定している催事は、市が主催するのではなく、スペースを貸出し、利用していただくということである。

ある催事を開催している団体に聞いたところ、その催事を一式レンタルしており、主催者はその貸出しを受ける形で実行委員会などが開催しているとのこと。開催するにあたっては、色々とお金もかかるが、その時にネックとなるのが場所代で、そこに経費がかかると収益が上がらないとのことで、公共施設のように比較的安く床を貸し出せるとなると需要があると考えられる。さらに、郊外ではなく、駅前で開催できるとなると、観光客も市民の方も来やすいので効果が高いと思う。

(瀬戸口委員長)

札幌でチームラボがデジタルアート展を開催していたが、凄く遠い、芸術の森で開催していた。

(仙石委員)

自分も実際に、帯広でチームラボが開催していた時に見に行ったが、開催していたら、わざわざ行くと思う。

(事務局 高橋課長)

北海道だと、皆さん車で道内を移動するので、函館で開催していないものは見に行く、また、わざわざ東京まで行くという話も聞くので、函館でこうしたことが開催されると需要はあると思う。あとは、どれだけ催事を呼べるのかというのはあるが、市が主催するまでは考えていない。

(瀬戸口委員長)

具体的な話は、次の段階であるが、イメージを作ることは大事なことだと思う。アンケートを実施し、広い意見が入っていると思うが、基本となる機能の中のキーワードで、こういうのがあったらもっといいとか、これが欲しいとかはいかがか。

(安井委員)

ちょっと粒度が違う気がするが、リスキリングとか学びとか。

(瀬戸口委員長)

そういうのがあってもいいと思う。最近だとリビングラボとか。例えば、大学だとか、自分の実験場、研究室みたいなものを作りながら、離れて隔離されているのではなくて、まちの中の社会課題をウォッチしながら一緒に考えていくための拠点というのがあるが、そこからスタートアップが出る場合もあり、そういうチャンスを作ることになる。皆さんが生活しながら、人と交流しながら一緒に考えて、いかに行動するかということ。

(安井委員)

分からないが、未来大に看護学部ができた時には、そこでリビングラボとかが良い。

(瀬戸口委員長)

リビングラボに強い分野もあるが、ものづくりも色々やっている。

(菊池委員)

ちょっと違うかもしれないが、意見から抽出したキーワードの中に、観光情報がある。

私は函館に来る前は横浜にいたが、こっちに来た時に、インターネットや周りの人から聞いて得られる情報は沢山あったが、やっぱり分からないことも沢山あった。観光だけではなく、ここに行けば知ることができる知の拠点みたいな、様々な情報を集められたらいいと思っている。

私が意見で出した、5ページの「市民と観光客が自由に書き込める函館おすすめマップの設置」とは、情報の種まきみたいなことができないかなと思っている。例えば、ウェルビーイングの話があったが、市民から「こういうランニングコースがお勧めだよ」との書き込みを見て、観光客もランニングしてみたり、ウォーキングしながら観光したりする人たちがいないかと。そのように、市民が種をまいて、観光客も「ここに行ったよ」「いいね」みたいなものを、昔だとマップに付箋を貼っていたけれども、今はデジタル化で、ハッシュタグだとかでできるのではないかな。自分たちが行ったところとか、自分たちがお勧めするところ、例えば、学生たちが友達とおしゃべりしながら勉強ができるところとか、そういう情報が蓄積される。自分の子どもが小さい時に、どこに連れて行けばいいか分からなくなかった。近くに公園がなかったり、児童館だと昔からの人達がいるから行きづらいとか、キラリみたいなものがあれば良かったが、そういう世代の知りたい情報を、観光だけではなくて、そういう写真とか書き込みとか、データバンクではないが、もちろん良い情報も悪い情報もあるかもしれないが、その当りは精査されて、観光客も地元の人達がよく行くラーメン屋さんとか、「るるぶ」とかそういうものじゃなくて、知りたい情報があったりすると思う。そういう情報のサーチができ

る、デジタル的なものもいいとは思いますが、例えば投稿するとポイントが付くとか、自分の投稿した写真が「いいね」じゃないが、効果が生まれていることを知ると、若い人たちは承認欲求が高いので、そういうのが気になって見に来て、自分たちが書いたことに続いていたりすると、興味を持ったりすると思うので、そういう情報の機能として、観光だけではなくあってもいいと思った。コースが出てきても面白いと思う。

(瀬戸口委員長)

今は、ネットでいくらでも情報は取れる時代だけど、生きた情報、今時点の情報とか、函館の魅力を伝えるようなコンシェルジュがいることもいい。

(菊池委員)

良いと思う。食事はどこがいいとかも面白そうだと思うが、多分、1階のレストランに行っちゃって時間が余ったから上に行こうとか、そういう人たちもいると思うので、先程、永澤委員からもお話しがあったように、観光客はある程度プランを立ててくると思うが、実際にまち歩きをしながら、探してみるということもあると思うので、コンシェルジュのように、お勧めの情報を整理してくれる人がいればいいと思う。どこで誰に聞いたらいいかわからない移住した人とかも、ここに行ったら分かるとか。病院も結構困ったし、小児科はどこがいいとか、幼稚園がどういう所にあるのかとか、ネットで調べてもあったが、取捨選択しづらかった。もしくはコンシェルジュのような機能があるといいと思う。

(仙石委員)

そういう点ではまちづくりセンターもピンポイントで聞かれ、ラーメン屋はどこがいいですかとか。その中で言えるのは、コンシェルジュという話でいくと、市民目線で、非日常を観光客の方は訪ねてくるので、私はここが好きですよと言うと喜んでくれる。

(永澤委員)

菊池委員のコンシェルジュ機能のご指摘は、以前からまちづくりセンターがそうした相談や情報提供のニーズに応えられるスタッフや機能を有して、サービスを展開していたはずなのに、まだ担いきれていないということ、今、改めて思い知らされた。次々と公共施設ができ、団体が知恵を絞って運用する中で、本当に必要としている人と、それをちゃんと提供できている施設がマッチングしていないという現実もある。この施設も含め、私たちは、こういう機能を提供しますよということが、必要としている人にしっかり伝わる取組が必要だと思う。

(瀬戸口委員長)

函館観光の定番が決まっていて、ほとんどそれをなぞっているようなものが多い。

だけど、本当はもっと色々な魅力があって、それをもっと伝えるようなところがあってもいい。それが市民の生活と繋がっていくのかもしれない。

(仙石委員)

函館観光は、教会群を歩いて、最近奇麗になった公会堂を見て、八幡坂に行くのが王道だが、正直、王道も調べてこない人もいる。

(瀬戸口委員長)

函館に来ることが目的になっている。

(仙石委員)

そういう地場の情報とか、案内が市民のためにも役立ち、病院もあるだろうし、観光客だって病院に行く。

(折谷委員)

昨年、シンガポールから1週間くらい函館近郊に来ていた方が、娘さんが熱を出したとのことで、外国人をしてくれる病院を知らないかと、夜に連絡が来たことがあった。

ただの風邪だったようだが、函館の方ではない、英語ができる人と連絡を取って調べ、函館の救急病院に行ったことがあった。その時に、対応してあげたいと思っていても、どうしていいかわからなく、かわいそうだと思いながらも何もできなかった。そういう外国人観光客のための病院を誰に聞いたらいいのだろうと思ったので、どこに聞けばいいか、コンシェルジュ的なものがあれば、函館市民も知らないことがあると思う。

(瀬戸口委員長)

ディープな函館が分かる場所があってもいい。

(折谷委員)

先程、安井委員から「函館を好きにさせる」というキーワードが出たので、それがすごくいいと感じた。委員の皆さんからも、函館を好きになってもらいたいとか、函館の良いところを話されているので、函館を好きにさせるというのを、どこかに入れていただきたい。見た人も食いつくような感じで、その言葉がいいと思った。

(瀬戸口委員長)

「好きです札幌」というのがあったけれども、函館はそういうロゴだとか、キャッチフレーズはあるのか。

(永澤委員)

ない。

(安井委員)

函館は油断しているから、みんな好きで来ていると思っている。

(瀬戸口委員長)

「函館を好きになる」というのは良いと思う。函館を好きになる場所が、どこかにあるというコンセプトで、市民も観光客も函館が好きになる公共施設。

(仙石委員)

商業施設が下に入ることから、恐らく、公共施設を運営する人達は、テナントからシャワー効果を求められると思う。このコンセプトは市民に重点を置いたところが大事で、それで、さっき言ったような観光客が来るような、デジタルアート展だとか、集客が見込める興業とかでシャワー効果があるという点で言った。

(瀬戸口委員長)

機能は、大体これで揃っていて、もう1つの特徴として、どこに、この売りを持たせるか、そういう意見をいただき、それが決まりでもないと思うが、ここに特徴を持たせる、そんなアイデアを、それが函館を好きになるに繋がるといい。

(安井委員)

市民目線で、函館の好きなところを発信できるとか、何か分からないが、持ち寄って自慢できるとか。観光客が「ここ良かったね」ところの写真を貼るとか、A I 的なものかもしれないけど、施設の上から下まで写真のタワーとか。

(瀬戸口委員長)

来た市民の人たちが、「ココがいい」とか「こんなのがいい」というのを集めていくだけでも、相当、生きた情報になっていくし、情報だけじゃなく、そのものが体験できたりするといい。

今、観光地のインスタグラムを集めていて、それがどのように人に刺さっていくかを研究してい

る。8割が食べ物の写真だが、その中にも、色んなまちの風景だとか、楽しいところだとか、みんなインスタグラムに上げている。そこがいいスポットになったり、裏スポットになったりしている。

(菊池委員)

見てほしいからインスタもするし、どこかお店を知っているか聞くと、すぐ食べ物の写真とかを見せられる。そういうものを出せる場所が、インスタだけじゃなくて、場所になると、何年かぶりに来た時に、自分の出したものがまだ残っているだとか、もしくは学生が初めてデートした記念にもなるかもしれないし、そういうのが面白いと思う。

(瀬戸口委員長)

今の若い人達は、みんなそうなのかもしれないけど、いろんなものを共有したい。

(菊池委員)

共有したいし、承認欲求ではないが評価されたい。

(瀬戸口委員長)

そんなことが実現できるとか、体験できると楽しい。

(菊池委員)

外国人も、写真であれば言語化しなくてもよく、逆にコメントが母国語で書いてあればうれしいと思う。

(瀬戸口委員長)

それが集まってくれば、函館が好きになると思う。

(永澤委員)

この施設において、函館のどこにもない特色と言えば市民広場だと思う。函館では五稜郭タワーの中にアトリウムがあるが、この市民広場は大いに活用の可能性があると感じているので、ここのハンドリングをどうするか。あまり、敷居を上げることなく、例えば、アーティスト活動をしている方々が、簡単な登録で、主催イベントがない時には、自由に発表する機会ができるようにするとか、あるいは主催者側、運営管理側は、演目のタイムテーブルを組んで情報発信することで、観光客も楽しめるものになる。香港を訪れたとき、まちの広場でミュージカルをやっていて、それが旅の思い出として今も残っている。芸能がしっかりしている地域、沖縄や津軽、弘前、青森もそうだが、津軽三味線とか、民謡とかを披露する機会を、主に飲食店が演舞の時間を設けていることが多いが、函館も市民活動、芸能活動に取り組まれている方がいる地域だとすれば、雨風しのげるオープンな空間を活かしてそういう披露の場を運営できれば、この場所の大きな特色になると思っている。

(瀬戸口委員長)

街の活気は、そういう所に出てくる。活気がある街は、誰かが何かをやっている。

(折谷委員)

先程、永澤委員から宇都宮の大階段の話聞き、自分の頭の中でイメージができた。

今の話の中で、その広場のようなところで、誰かが何かイベントの活動をしていて、それをふらっと来た人達が、自分たちはイベントの出展をしていないけれども、それを見て参加して、時間になったら帰るというように参加できると思った。それが階段なのか、サークル上なのか、どのようなものかは分からないけれども、自分が主人公じゃないけれど見ながら参加できる、そういう空間があればいいなと、それが特徴としての言葉ではうまく言えないが、すごく良い空気感というか、そういう集うような広場的なものがあれば。それが屋外ではなく、屋根のあるところというのが、何となく敷居も低く、スーツケースを引っ張りながらも、ちょっと行って見られるという感じの

空間があれば良いと思った。

(永澤委員)

椅子、テーブルみたいなものは、運営者がその催事に応じて出したりしまったりの手間がかかるが、大階段1個あるだけで何の用意も無く、ただ腰をかけることができる。

(瀬戸口委員長)

街角ピアノのみたいなもの。

(永澤委員)

あってもいいと思う。

(安井委員)

思いつきだが、全部をそうしなくて良いが、階段などのある一角はスマホを見てはだめ、イヤホンをつけてはだめで、そこに座っている人に対しては、誰が話しかけてもよい。そこしか空いてないから座っちゃったら、話さざるを得ないみたいものがあるのもあってもいいかなと思う。

(瀬戸口委員長)

函館の街の中には、あまり緑がなく、函館山に行けば沢山あるが、グリーンプラザにもあまり緑はなく、冬こそ落ち着けるような、そういう場所があってもいい。

(仙石委員)

デベロッパーの話と絡むかもしれないが、多分、市が床を購入して整備すると思うが、来る人からすると、全体を見て来るので、統一感というか、函館を好きになってもらえるようなデザインにする。例えば、今日はタータンを着けてきているが、そういう函館を好きになってもらえるような、函館の要素を取り入れて、館が一体化したデザインだと良いと思う。市と組合で協議していくと思うが、その辺の調整は最初にやらないと大変である。

(永澤委員)

民間企業である全国チェーンのC o C o 壱番屋は、函館に新しい店舗をオープンする時に、店内を函館の内装としていて、全国企業でさえもそういうコンセプトで、地域に溶け込んでいくことをしているので、公共で整備する施設であればなおのこと。

(仙石委員)

下の商業とトータルで連動したデザインにすることが大事である。函館タータンのコンセプトは、赤レンガとか、函館の海を彷彿させるようなデザインになっている。

(永澤委員)

市民広場の話だが、ガラスを中心としたオープンなスペースというのは残響が激しくなってしまう。「マチニワ」のように木材である程度音を吸収するという取組をしている施設もあるので、音響を使う催事のことを考慮した空間作りにも配慮はいただきたいと思う。

(瀬戸口委員長)

多分、どういうことをやるかが具体的になれば、その中で設えは変わってくると思う。よくあるのは、火を使うか水を使うかによって、大きく変わる。

(仙石委員)

消防法もクリアし、しっかり人も通れ、防犯上もクリアできるような作りになると非常に良い。それでうまくいっているのは、シエスタで、シエスタの非常階段は、一般の人でも通れるようになっており、うまくできている。

(瀬戸口委員長)

色んな意見はあったが、6ページの下段の「基本となる機能」は、十分に良くまとまっているの

で、これをベースに進めていくということによろしいか。この上に、特徴を持たせるということなので、この特徴をどうするか。今日、色んな意見をいただき、「函館を好きになる」ということも入られて、これからまたそれぞれの意見をいただきながら進められればと思う。

(事務局 高橋課長)

皆様からいただいた意見を踏まえて、庁内で検討し、市の考えを決めることとなる。

(瀬戸口委員長)

それでは、6ページの機能はこのとおりとし、この上の特徴については、今後、整理をしていくこととなる。

それでは、今後の進め方やスケジュールの説明を事務局に願います。

..... 3 その他

(事務局 坂田主査)

事務局から、今後のスケジュールについてお知らせする。

本日、協議いただいた原案を基に、今後、市として「公共施設整備の基本的な考え方」を成案化していく。

予定では、2月中旬頃を目途に、市として「基本的な考え方」を取りまとめ政策決定し、その後、市民意見を聴取するためのパブリックコメントを実施するほか、議会議論などを経て、令和7年5月を目途に「基本的な考え方」を公表したいと考えている。

委員の皆様には、今後、政策決定のタイミングなどを捉えて、その都度、情報提供させていただきたいと考えている。

会議の終了にあたり、経済部長から一言ご挨拶申し上げる。

(氣田部長より挨拶)

..... 4 閉 会

以上で、第2回検討会議を終了する。